

平成23年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

平成 24 年 3 月

兵庫県教育委員会

平成23年度 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

1 参加生徒数等について

- (1) 実施校は、365校(全公立中学校347校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校17校)
 6月を中心に実施した学校 : 236校(64.7%) (内数: 市立特別支援学校5校)
 11月を中心に実施した学校 : 129校(35.3%) (内数: 市立特別支援学校12校)
- (2) 実施期間は、平成23年5月9日～平成23年12月9日
- (3) 参加生徒数は、48,885名(内数: 特別支援学級517名、市立特別支援学校104名)
- (4) 班数は、17,355班で1班平均2.8名
- (5) 活動場所数は、17,306カ所で生徒2.8名につき1カ所
- (6) 指導ボランティアの数は、21,992名で生徒2.2名につき1名
- (7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、89名

年度	実施校数	2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
		学級数	生徒数			
H23	365	1,437	48,885	17,355	17,306	21,992
H22	368	1,413	48,094	17,110	16,325	19,858
H21	369	1,403	47,271	16,487	15,893	20,093
H20	371	1,428	48,806	17,515	16,267	19,810
H19	370	1,381	46,821	17,019	15,498	20,509
H18	370	1,411	48,187	17,381	15,590	20,593
H17	372	1,437	48,546	16,613	15,720	20,743
H16	372	1,430	48,913	16,239	15,561	20,269
H15	365	1,440	49,782	16,833	15,671	20,687
H14	364	1,496	52,216	18,243	15,985	21,573

	班編制	活動場所	指導ボランティア
H23	1班:2.8名	2.8名につき1カ所	2.2名につき1名
H22	1班:2.8名	2.9名につき1カ所	2.4名につき1名
H21	1班:2.9名	3.0名につき1カ所	2.4名につき1名
H20	1班:2.8名	3.0名につき1カ所	2.5名につき1名
H19	1班:2.8名	3.0名につき1カ所	2.3名につき1名
H18	1班:2.8名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名
H17	1班:2.9名	3.1名につき1カ所	2.3名につき1名
H16	1班:3.0名	3.1名につき1カ所	2.4名につき1名
H15	1班:3.0名	3.2名につき1カ所	2.4名につき1名
H14	1班:2.9名	3.3名につき1カ所	2.4名につき1名

2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
職場体験活動	83.5%	81.7%	82.6%	82.0%	82.7%	81.0%	81.3%	79.2%	77.0%	76.5%
ボランティア・福祉体験活動	7.8%	7.8%	7.0%	7.5%	6.6%	6.7%	7.0%	7.9%	7.0%	7.0%
文化・芸術創作体験活動	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%	5.8%	5.7%	3.9%	4.7%
農林水産体験活動	2.5%	2.7%	2.8%	2.9%	2.8%	3.1%	3.2%	3.5%	3.8%	3.8%
その他	2.3%	4.0%	3.1%	2.8%	2.9%	3.1%	2.7%	3.7%	8.3%	8.0%

文化・芸術創作活動には、平成16年度から地域活動・郷土活動が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

活動内容	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
幼児教育	20.7%	20.9%	21.1%	21.0%	21.0%	20.6%	20.6%	20.2%	20.0%	19.1%
販売	19.2%	19.6%	19.3%	19.4%	20.3%	20.1%	20.9%	20.6%	20.0%	21.6%
役所・消防署等	8.4%	7.8%	8.0%	7.8%	7.8%	7.8%	8.1%	7.9%	8.6%	7.9%
飲食店等	6.6%	6.1%	6.4%	6.1%	5.5%	5.4%	5.3%	5.2%	5.2%	5.1%
社会福祉施設	6.5%	5.9%	5.4%	5.5%	5.0%	5.2%	5.3%	5.7%	5.3%	5.2%
製造・建築	4.7%	4.9%	4.9%	5.7%	5.8%	5.9%	5.9%	5.8%	6.0%	6.2%
小学校・高校・大学	5.0%	4.6%	4.6%	4.3%	4.2%	4.0%	3.0%	-	-	-
文化・芸術創作活動	3.9%	3.8%	4.5%	4.8%	5.0%	6.1%	5.8%	5.7%	3.9%	4.7%
スポーツ・体育施設等	3.8%	3.7%	3.7%	-	-	-	-	-	-	-
病院等	3.7%	3.5%	2.9%	3.4%	3.3%	3.3%	3.3%	3.2%	3.1%	3.6%

文化・芸術創作活動には、平成16年度から地域活動・郷土活動が含まれている。

ウ 本年度の特色ある取組

<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災支援物資仕分け作業 ・日本舞踏体験 ・チェンバロの製作 ・竹田家具販売体験 ・醤油製造作業補助 ・国包建具づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・B1グランプリ手伝い ・丹波竜の発掘体験 ・コウノトリ飼育体験 ・小麦（ふくほのか）の収穫 ・檜皮重ね葺き ・名塩和紙製作体験
--	---

(2) 生徒の希望達成度

- ・第一希望が叶えられた生徒は、70.9%である。

活動内容	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
・第一希望が叶えられた生徒	70.9%	70.6%	70.0%	70.7%	69.8%	72.0%	71.2%	70.4%	73.5%	71.6%
・第二希望が叶えられた生徒	16.5%	16.2%	16.5%	16.1%	17.4%	16.6%	16.7%	16.3%	15.8%	16.4%
・第三希望が叶えられた生徒	6.6%	6.5%	7.2%	6.6%	6.8%	6.5%	6.5%	6.3%	5.9%	6.7%
・その他	6.0%	6.7%	6.3%	6.6%	6.0%	4.9%	5.6%	7.0%	4.8%	5.3%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応

- ・時間をかけて話し合った ……46.8%
- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……70.1%
- ・活動の意義の話 ……54.0%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について

- ・新規の活動場所の割合(数)・・・13.2%(2,203カ所)
- ・校区外の活動場所の割合(数)・・・40.4%(6,746カ所)

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数・・・11.3時間

イ 主な事前指導の内容例(公立中学校及び中等教育学校の実施率)

・希望調査(99.7%)	・出発式(77.3%)
・趣旨及び活動説明会(99.4%)	・名刺作り等(76.1%)
・受入先への訪問(97.7%)	・ボランティア等との打ち合わせ(74.1%)
・受入先の紹介等(92.0%)	・進路(職業調べ等)、福祉学習(67.2%)
・マナー指導等(90.8%)	・他学年、地域等への啓発活動(57.8%)

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数・・・7.7時間

イ 主な事後指導の内容例(公立中学校及び中等教育学校の実施率)

・感想文集作成等(96.0%)	・広報活動(42.0%)
・礼状作成等(92.2%)	・「トライやる」アクション(31.9%)
・実践発表会(85.3%)	・交流会(16.1%)
・発展学習(65.8%)	

発展学習実施校(229校)の内訳

進路学習(95.6%)	情報学習(34.1%)	福祉・健康学習(33.2%)
環境学習(21.0%)	人権学習(19.7%)	防災学習(12.2%)
国際理解学習(8.7%)	平和学習(5.7%)	

(7) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	42.0%
高等学校と連携した取組の実施	2.9%

[連携した内容]

- ・中学校区内の小学校が受入先となり小学生との交流を図っている。また、小学校職員がトライやる報告会へ参加している。
- ・受入先の小学校の先生が「トライやる・ウィーク」の意義、目的、内容等の指導や事後指導の協力を行っている。
- ・実施後に小中学校で、教員同士が成果と課題について話し合っている。
- ・「トライやる・アクション」の一環として、小学校の運動会や、学校行事、地域のボランティア活動に参加している。
- ・活動期間中に中学生が小6児童に中学校生活での学習や部活動の紹介をおこなっている。
- ・トライやる・ウィークの報告会(発表会)に小学校の児童が参加している。
- ・校区推進委員会の委員として、小学校長に入ってもらっている。
- ・高等学校がトライやる・ウィークの受入先となっている。
- ・高等学校の教師と高校生に指導ボランティアとして協力してもらった。

(8) 感想・意見等

生徒 (47,383 名)

働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	91.3%
社会のルールやマナーの大切さがわかった	76.4%
コミュニケーションの大切さを感じた	75.3%
人とのふれあいが楽しかった	73.9%
大人の人の優しさを感じた	71.0%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを持った	64.9%
自信を持てた	38.2%
学校生活での目的が持てた	29.2%

- ・責任を持たなければならないことや、何事もあきらめずに取り組むことの大切さを学んだ。
- ・厳しい言葉の裏には愛情があるとわかった。
- ・仕事の厳しさを知り、親の気持ちが少しわかるようになりました。
- ・日ごろ、どれだけ周りの人に頼っているか、支えられているかが分かる体験でした。
- ・地域の人々の優しさを感じた。思いやる心が持てたと思った。
- ・何事も一生懸命取り組むと、楽しくやりがいがあると感じた。
- ・誰かの役に立つうれしさ、仕事の楽しさが少し分かった。
- ・お金をかせぐことの難しさや親への感謝の気持ちが大きくなった。
- ・社会のルールやマナーの大切さが分かった。また、これからの生き方を学ぶこともできた。
- ・自分にはこんな事ができる力があるのだなと思えました。
- ・挨拶の大切さや、目上の人への言葉遣いの大切さなどを学びました。
- ・人と接すること、自ら行動すること、自分の思いをしっかりと伝えることの大切さを知った。
- ・尊敬する人ができ、将来のことについて考えるきっかけになった。
- ・仕事が終わった後の達成感はとても良かった。

保護者

- ・トライやる・ウィークを体験することで、家庭でも、挨拶や言葉遣いなど、基本的なことの大切さや、お店の裏ではこんな事をしていたという感動と発見について話す事ができました。
- ・トライやる・ウィークを終えた子供の表情には、それまでになかったような自信を感じました。親や先生以外の大人と接することの少ない今の子供たちにとって、自立につながる貴重な体験だったと思います。
- ・多くを語らない子が初めて具体的な将来の夢を語ってくれました。「トライやる」がなかったり、希望の場所に決まっていなかったりしたら絶対に聞けなかったことです。この中学生という難しい時期に、本人も親もとてもよい体験ができました。
- ・普段は、「してもらって当たり前」の生活が、一週間は「自分がする立場」になり、挨拶やそのときの会話が必要となり、考えて行動する、話をする・・・といったことなど、本人にとっていい勉強ができた実習でした。
- ・「プロ」の仕事をまのあたりに見て、子どもは驚いたり、感心したりしたと思います。
- ・学校生活では、体験できない一般社会の厳しさや人とのコミュニケーションを学ぶことができた良い授業の一環であった。
- ・社会に一步踏み込んだよううれしい気持ちだったようです。継続的にこのような場を設けていただけると良いと思います。

関係者

- ・嫌な顔一つせず、笑顔で仕事に取り組む姿に感激しました。利用者さんが涙を流して喜ばれ、また来てほしいとおっしゃられていました。来年もぜひ参加していただきたいと思います。
- ・学校を休みがちで心配していた生徒が笑顔で参加してくれ、非常にうれしく思いました。
- ・来店されるお客様が中学生に気付くと、途端に表情が柔らかくなり店が和やかな雰囲気になった。
- ・接客が慣れない対応となっても、お客様の「大丈夫だよ」の声かけがありがたかったです。
- ・中学生に出来る仕事には限りがあり、対応に苦慮することがあります。特に家庭生活と社会生活の区別をつけられていない幼さを少し感じました。「挨拶をきちんとする」、「目上の人に対して敬語で答える」、「人の話に耳を傾ける」等のマナーの習得については日々の生活の中での積み重ねが大切だと思います。
- ・幼稚園で、日頃接することの少ない中学生との触れ合いは園児も良い経験となりました。
- ・社会に出て働くことの楽しさや難しさを少しでも分かってくれたらと思い、従業員も接した。
- ・この職場の仕事を知ろうとする態度がみられ、礼儀正しく職員や利用者と接することができました。この経験を中学校の生活に活かして頂きたいと思います。私たちにも自分の仕事に対する姿勢を見直すよい機会になったと思います。

教職員

- ・学校では見られない生徒の個性や様子を知ることができ、その能力を生き生きと発揮できた場であったと思う。また、トライやる活動中だけでなく、その準備から研修、まとめの感想文やトライやる新聞などに取り組んだ学習も、貴重な期間だったと感じている。
- ・トライやるが始まる前、不登校ぎみだった生徒、欠席が多い生徒、遅刻の多い生徒がトライやるを終えてから元気に登校し、教室で学習に取り組んでいる。
- ・どの生徒も生き生きと活動していた。
- ・多くの生徒は、トライやるを機に社会性やマナー、働くことへの意識の向上がみられた。
- ・お客さんとふれあう事業所ではマナーや接客に対する心構え等学ぶことができ、学校で学ぶことのできない貴重な体験ができたと思う。
- ・学校の教師とは違った角度から生徒をみてもらい、知らない大人から指導を受けるということは生徒にとっても新鮮で、かつ刺激のあるものだったと思う。
- ・トライやるウィークを体験することで、何か将来に向けての自分の中での思いを見つけるきっかけになってくれることを願っている。
- ・本年度アンケートの様式が簡素化されたことが大変よかったと思いました。他の報告様式等も簡素化の方向でご検討下さい。

(9) 不登校生徒への影響(市立特別支援学校は除く)

- ・1年生の時に不登校の生徒(年間30日以上欠席)のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、427名(全体の46.6%)であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、163名(全日参加生徒の38.2%)の生徒の登校率が上昇した。実施後2ヵ月の状況は、154名(全日参加生徒の36.1%)の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
H23	365校	48,887名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%
H20	354校	49,323名	948名	405名	151名	139名
				42.7%	37.3%	34.3%
H19	353校	47,369名	965名	442名	159名	144名
				45.8%	36.0%	32.6%
H18	354校	48,677名	928名	416名	163名	150名
				44.8%	39.2%	36.1%
H17	355校	49,025名	989名	467名	174名	162名
				47.2%	37.3%	34.7%
H16	359校	49,413名	1,030名	482名	193名	192名
				46.8%	40.0%	39.8%
H15	360校	50,304名	1,001名	453名	184名	167名
				45.3%	40.6%	36.9%
H14	360校	52,770名	1,146名	544名	217名	198名
				47.5%	39.9%	36.4%

3 市立特別支援学校について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 17 校

6 月を中心に実施した学校：5 校、11 月を中心に実施した学校：12 校

(2) 実施期間 平成 23 年 5 月 12 日～11 月 24 日

(3) 参加生徒数 104 名(41 クラス、在籍生徒数 106 名)

(4) 班数 68 班(1 班平均 1.5 名)

(5) 指導ボランティア数 149 名(生徒 0.7 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 89 名(生徒 1.2 名につき 1 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
H23	17	41	104	68	96	149	89
H22	18	38	104	68	93	145	118
H21	17	37	97	62	104	159	92
H20	17	38	111	65	100	183	98
H19	17	34	82	59	87	115	58
H18	16	31	78	43	65	79	48
H17	17	30	75	42	75	100	39

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
H23	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H22	1 班：1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	0.9 名につき 1 名
H21	1 班：1.6 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H20	1 班：1.7 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.1 名につき 1 名
H19	1 班：1.4 名	0.9 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.4 名につき 1 名
H18	1 班：1.8 名	1.2 名につき 1 ヲ所	1.0 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H17	1 班：1.8 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	1.9 名につき 1 名

(7) 活動場所数 96 ヲ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 10.6%(11 名 / 104 名)

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	H23	H22	H21	H20	H19	H18	H17
職場体験活動	55.8%	45.5%	51.9%	54.9%	53.8%	64.5%	56.7%
ボランティア・福祉体験活動	23.5%	16.5%	16.4%	20.2%	14.8%	14.2%	17.9%
農林水産体験活動	12.7%	15.6%	13.5%	9.1%	8.6%	7.1%	12.7%
文化・芸術創作体験活動	7.3%	6.5%	9.1%	8.7%	10.0%	12.2%	11.2%
その他	0.8%	16.0%	9.1%	7.1%	12.8%	2.0%	1.5%

イ 内容別(平成 23 年度上位 6 の活動内容)

社会福祉施設	23.5%	製造・建築	7.3%
農業	9.6%	文化・芸術創作活動	7.3%
役所・消防署等	8.8%	水族館・動物園	7.3%

ウ 本年度の特色ある取組

・花苗の植え替えなど	・書庫の本並べ、カウンター業務、本の修理
・農作業	・デニッシュ作り
・クッキーの袋詰め	・化粧品の箱の組み立て
・コーヒー豆の袋詰め、コーヒー豆の袋のゴミチェックとタグ付け	・商品配置、接客、レジ業務

4 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）について

(1) 実施校 191校 52.3%

(2) 参加生徒数 ()内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	14,059名(11)	73.6名
2年生	16,042名(20)	84.0名
3年生	12,520名(19)	65.5名
合計	42,607名(50)	223.1名

(3) 活動内容について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

活動区分	実施校数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	105校(1)	55.6%
清掃活動等を諸団体と連携して行う活動	67校(0)	35.4%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	132校(1)	69.8%

母数は、実施校数

(4) 活動の内容例

- ・地域の夏祭り、運動会等の企画、模擬店の出店
- ・地域伝統行事への参加及び運営補助（武者行列、しめ縄づくり等）
- ・清掃活動、緑化活動ポイ捨て防止キャンペーン、資源ゴミ回収、環境フォーラム
- ・地域の方とのスポーツ・文化交流、市民マラソン大会連携、青少年育成市民大会
- ・人権啓発キャンペーン、いじめ撲滅キャンペーン、健康フェスタ
- ・ふれあいコンサート、定期演奏会、箏曲演奏会
- ・商店街パレード、商店街と連携して行う歩行者天国
- ・警察署と連携して行う交通安全キャンペーン
- ・高齢者交流お茶会、長寿祝いの会
- ・東日本震災ボランティア、チャリティーコンサート東北物産展への支援活動等
- ・地域防災パレード、地域自主防災総合訓練
- ・バーベキュー大会、うどん作り、百人一首大会、焼き芋大会、芋掘り大会
- ・わくわく実験教室、おもちゃ教室、凧づくり教室、
- ・職場体験（園児の世話、ペンキ塗り 自動車の整備、庭木剪定など）
- ・成人式お祝いパネル作成、ウォークラリー、シャーベット作り、クリスマス会
- ・特別養護老人ホームでの劇
- ・障害者就労継続支援通所作業所ボランティア
- ・農業体験

(5) 実施時期について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答あり)

	実施校数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	150校(1)	79.4%
夏季休業中に実施	112校(0)	59.3%
冬季休業中に実施	16校(0)	8.5%
春季休業中に実施	1校(0)	0.5%

母数は、実施校数

【参 考】H23「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校	P T A関係	地域団体代表等	合 計
5.3名	6.6名	6.9名	18.8名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能している	概ねできている	あまりできていない	ほとんどできていない
20.7%	59.2%	17.8%	2.3%

4 校区推進委員会が行っている活動例

- ・保護者、地域への啓発・協力依頼（77.0%）
- ・巡回訪問（53.9%）
- ・事前・事後指導における支援（47.5%）
- ・アンケート・まとめ（25.8%）
- ・受入先の開拓（68.5%）
- ・受入先の検討（53.1%）
- ・生徒の活動についての検討（44.1%）
- ・取材（15.7%）

[資料]

平成 2 3 年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」

実施後のアンケート調査結果

調査実施校数 348校

生徒数 47,383名

保護者数 38,075名

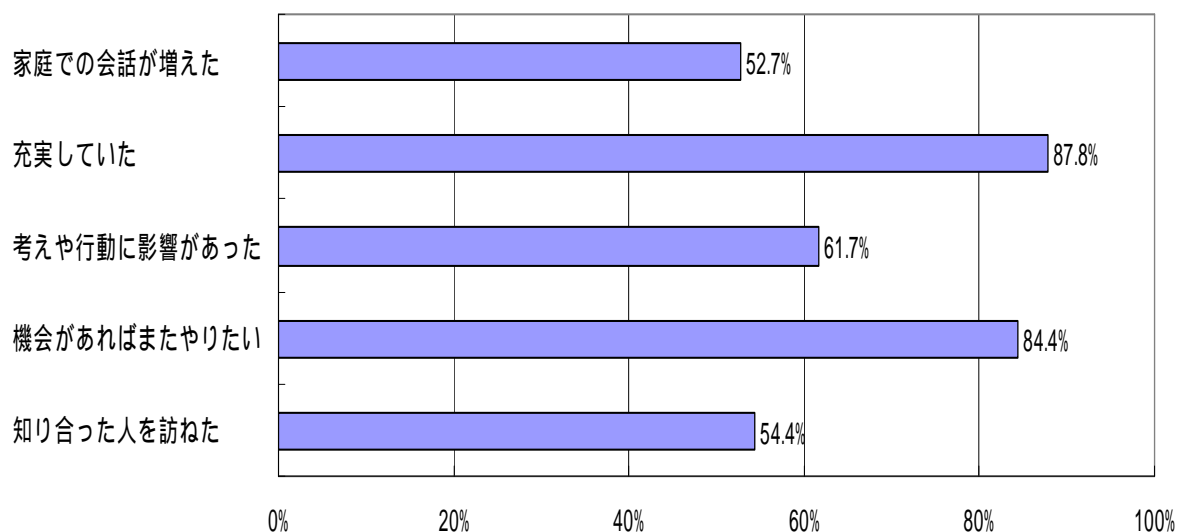
関係者数 13,568名

教職員数 3,313名

平成23年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後アンケート調査結果

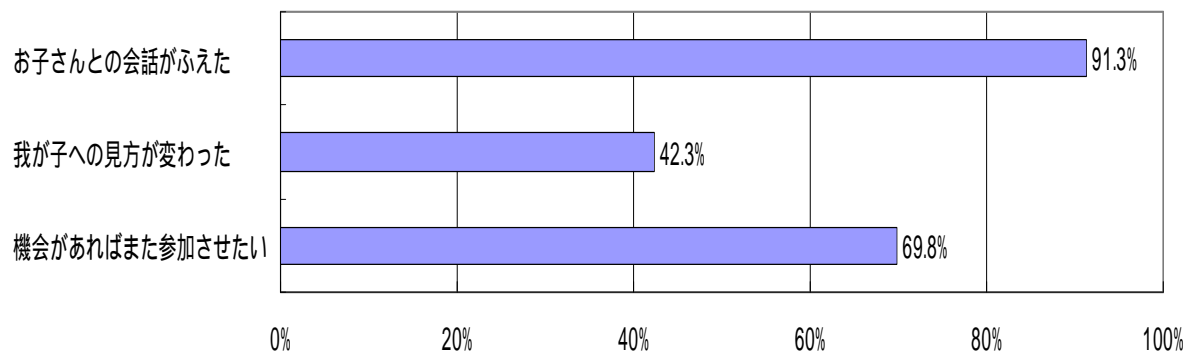
【生徒アンケート】回答数 47,383人

(設問) 「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。
「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。



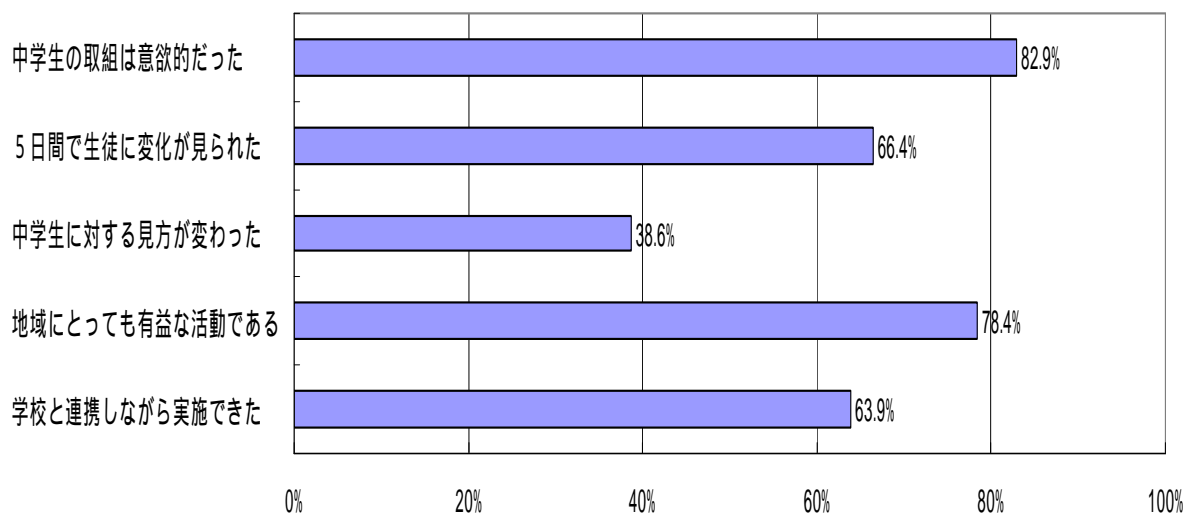
【保護者アンケート】回答数 38,075人

(設問) 「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

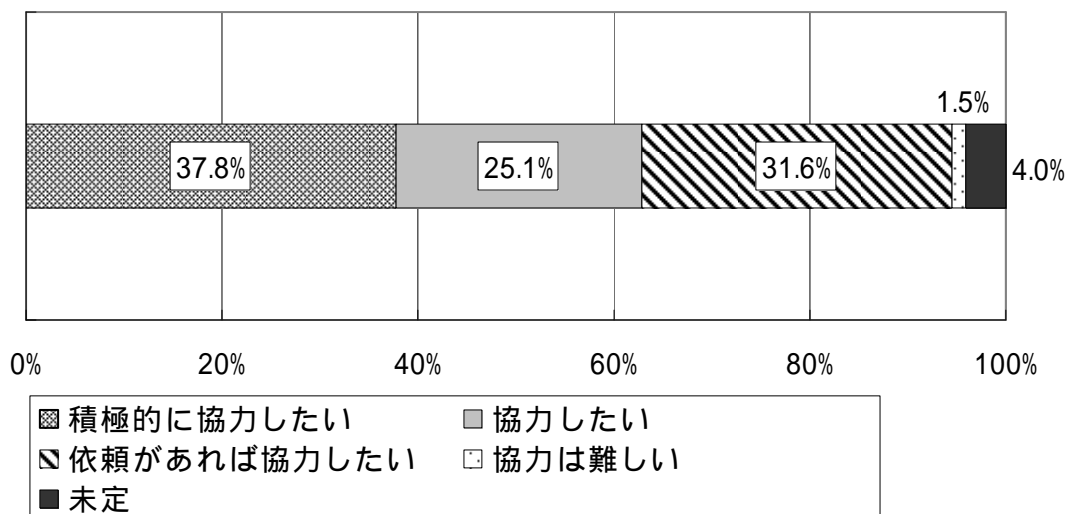


【関係者アンケート】回答数 13,568人

(設問) 「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
「トライやる・ウィーク」の5日間で生徒に変化が見られた。
この一週間で中学生に対する見方が変わった。
「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
学校と連携しながら実施できた。



(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いしますか。



【教職員アンケート】回答数 3,313人

(設問) ひとりひとりを大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。

